

令和 4 年度上半期業務実績等報告書

(第 3 期中期計画・第 3 事業年度)

令和 4 年 12 月



地域の明日を医療で支える

地方独立行政法人 長野県立病院機構

< 目 次 >

1	信州医療センター	・・・・・・・・・・	1 頁
2	こころの医療センター駒ヶ根	・・・・・・・・・・	6 頁
3	阿南病院	・・・・・・・・・・	13 頁
4	木曽病院	・・・・・・・・・・	22 頁
5	こども病院	・・・・・・・・・・	30 頁
6	信州木曽看護専門学校	・・・・・・・・・・	38 頁
7	本部研修センター・本部事務局	・・・・・・・・・・	42 頁

2 病院等別

2-1 信州医療センター

【理 念】

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

【基本方針】

- 1 人と人とのつながりを大切にし、心が満たされる医療を提供します。
- 2 医療の質の向上を図り安全な医療を行います。
- 3 医療・保健・福祉との結びつきを強化し、地域住民の健康増進に寄与します。
- 4 地域医療を担う優れた人材を育成します。
- 5 感染症医療の拠点病院として、先端医療を提供します。
- 6 病院機能の維持発展のため、健全な経営を行います。

2-1-1 総合評価

【成 果】

ア 産科医療体制の充実

7月に産科医師が1名退職したが、須高地域の分娩を担う施設としての役割を果たすため、7月から院内助産を開始。

新型コロナウイルス感染症蔓延の状況下でも妊産婦が安心して妊娠、出産、育児ができるように、ZOOMにて、ペアレンツクラスとヨガ教室を開始。立ち合い分娩も条件付きで継続。

妊産婦の新型コロナウイルス感染者が増加したため、陽性妊婦の対応マニュアルを作成し、受け入れを実施。

近隣の病院で妊婦健診を受診している妊婦の隔離期間中の受け入れを実施し、分娩にも対応。

区 分	R 4 上半期 実績	R 4 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
分娩件数	123 件	125 件	△2 件	120 件	3 件
産後 ケア					
宿泊型	0 人	-人	-人	24 人	△24 件
デイサービス型	1 人	-人	-人	2 人	△1 件

イ 在宅医療の提供

訪問看護の強化により、在宅療養に寄与

訪問診療、訪問看護では、新型コロナウイルス感染症拡大、在宅看取りの減少、療養者の状態悪化による入院が重なり利用者が減少

訪問リハビリでは、産育休の取得のため、9月までスタッフが0.5人減

区 分	R 4 上半期 実績	R 4 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
訪問診療	24 件	132 件	△108 件	133 件	△109 件
訪問看護	2,080 件	2,300 件	△220 件	2,281 件	△201 件
訪問リハビリ	1,718 件	1,700 件	18 件	2,157 件	△439 件
計	3,822 件	4,132 件	△310 件	4,571 件	△749 件

ウ 感染症医療の提供

感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的受入れ等、感染症拡大に対応

院内のワクチン接種と須坂市のワクチン集団接種会場への医師及び看護師の派遣により、ワクチン接種体制の強化に寄与

【感染者等受入数】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
感染者受入数	133 人 延べ 1,259 日	112 人 延べ 1,384 日	21 人 △125 日
疑い患者受入数	0 人 延べ 0 日	1 人 延べ 2 日	△1 人 △2 日
計	133 人 延べ 1,259 日	113 人 延べ 1,386 日	20 人 △127 日

【検査件数等】

検査種類等	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
PCR検査	911 件	771 件	140 件
抗原定性検査	1,717 件	2,005 件	△288 件
抗原定量検査	11,638 件	3,489 件	8,149 件
計	14,266 件	6,265 件	8,001 件

【発熱外来受入れ】

検査種類等	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
発熱外来受入れ	4,770 人	5,702 人	△932 人

【ワクチン接種件数】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
接種件数	2,067 件	3,384 件	△1,317 件

【市町村へのワクチン接種支援】

市町村名	延べ日数	派遣延べ人数	
		医師	看護師
須坂市	28 日	29 人	28 人

エ 内視鏡センターの運営

近隣市町村及び医療関係機関との連携により、検査を実施

項目	R 4 上半期実績	R 4 上半期年度計画	対年度計画	前年度上半期実績	対前年度実績
内視鏡検査件数	3,380 件	4,000 件	△620 件	3,082 件	298 件

- ・ COVID 強化問診を徹底し、安全な環境で検査を実施
- ・ 対策型胃内視鏡検診を予定通り 6 月から実施

オ 医療従事者の養成と専門性の向上

総合内科医の養成及び特定行為ができる看護師の育成により、県の医療水準向上に寄与

総合内科医の養成	昨年度から開設した総合内科医育成学講座(寄附講座)に関する協定により、信州大学から担当教員(内科系)2人の配置を受け、研修プログラム作成と専門医確保の準備に着手。
特定行為に係る看護師の育成	9月30日 第2期看護師特定行為研修6人修了(当院3人) 領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」 血糖コントロールに係る薬剤投与関連

カ 働き方改革への対応

- ・看護補助者の活用のため業務を見直し、看護師のタスク・シフト/シェアを推進
看護補助者活用のための管理者の研修を、看護師長・副師長が受講。全看護師の理解も必要であるためe-ラーニングで学習中。看護補助者の研修も、計画的に実施している。

5月から、院内で3部署目となる南5階病棟に病棟クラークを配置した。

- ・臨床検査技師、診療放射線技師及び臨床工学技士の厚生労働大臣指定講習費用の一部病院負担の実施
臨床検査技師等に関する法律の一部が改正され、医師や看護師の業務負担軽減に寄与するよう、臨床検査技師、診療放射線技師及び臨床工学技士に新たな業務範囲が追加された。それに伴い、業務を行うために必要な厚生労働大臣指定講習費用の一部を病院で負担し、受講を推進した。コロナ禍の状況を踏まえて、感染対策に留意しつつ対象職員が計画的に受講できる環境を整えるなど、タスク・シフト/シェアを推進した。

研修受講希望者 35名 R4上半期受講者 5名

キ 費用の抑制

当院で導入しているベンチマークシステムのデータを用いて4月よりディーラーと価格交渉を実施。複数回の交渉により、年度換算で14,600千円の削減(上半期実績では7,200千円)を達成。また、逆ザヤ品611品目のうち437品目(71.5%)を解消した。

2-1-2 経営指標等

【経営指標】

信州医療センター 令和4年度上半期実績

項目	区分	R4上半期実績	上半期年度計画	対年度計画比	上半期前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	36,422人	39,264人	92.8%	36,531人	99.7%
	外来	64,967人	60,825人	106.8%	58,637人	110.8%
新患者数	入院	2,124人	2,064人	102.9%	2,066人	102.8%
	外来	12,816人	10,285人	124.6%	9,979人	128.4%
1人1日 当たり 診療単価	入院	51,601円	50,372円	102.4%	50,041円	103.1%
	外来	16,331円	15,861円	103.0%	18,266円	89.4%
医業収益	入院	1,879,422千円	1,977,807千円	95.0%	1,828,066千円	102.8%
	外来	1,061,000千円	964,742千円	110.0%	942,154千円	112.6%
	合計	2,940,422千円	2,942,549千円	99.9%	2,770,220千円	106.1%
平均在院 日数		15.0日	14.0日	+1.0日	15.2日	+0.2日
病床利用率		63.5%	75.0%	△11.5ポイント	68.6%	△5.1ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者数、病床利用率 病棟の入退院制限、削減運用及び手術の制限により対計画値で減少 入院単価 結核病棟（新型コロナウイルス感染症受入病棟）において、症状が比較的重い中等症患者割合が高まったため上昇 平均在院日数 病棟における院内感染による退院制限及び結核患者受入再開により対計画値超え <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来患者数 対計画値・対前年度で増加し、コロナ禍以前より増加。 外来単価 通常診療に加え新型コロナ検査の対象者の割合が増加したため、対計画値で増加 					

項目	R4上半期実績	上半期年度計画	対年度計画	上半期前年度実績	対前年度実績
紹介率	23.5%	31.0%	△7.5ポイント	28.4%	△4.9ポイント
逆紹介率	26.4%	28.0%	△1.6ポイント	26.8%	△0.4ポイント

コメント	<p>◆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即応病床確保のための地域包括ケア病床の削減、新型コロナウイルス感染を疑い自発的に受診する患者や、保健所からの初診患者の増加により紹介率は減少 <p>◆逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内啓発と診療部の協力等により、上半期は昨年度とほぼ同等の水準を維持
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【損益計算書】

信州医療センター

(税抜、単位：千円)

科目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	3,980,539	3,707,629	272,910	3,837,397	143,142
医業収益	3,079,206	3,085,773	△6,567	2,901,040	178,166
運営費負担金収益	546,786	546,786	0	529,410	17,376
その他経常収益	354,547	75,070	279,477	406,947	△52,400
経常費用 (イ)	3,878,365	3,796,745	81,619	3,744,707	133,658
医業費用	3,700,121	3,618,860	81,260	3,557,144	142,977
給与費	1,894,671	1,860,885	33,786	1,873,667	21,004
材料費	960,018	871,690	88,328	866,565	93,453
減価償却費等	315,074	322,740	△7,666	290,920	24,154
経費	525,222	557,939	△32,717	521,083	4,139
研究研修費	5,136	5,606	△470	4,908	228
財務費用	42,841	42,482	359	46,755	△3,914
その他経常費用	135,403	135,403	△0	140,808	△5,405
経常損益 (ア-イ)	102,174	△89,116	191,290	92,690	9,484
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	102,174	△89,116	191,290	92,690	9,484
病床確保料(エ)	275,906	0	275,906	308,282	△32,376
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△173,732	△89,116	△84,616	△215,592	41,860
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の要請によるコロナ病床確保のための病床数減及び院内感染に係る運用病床の縮小の影響等により、医業収益は計画に対し 6,567 千円の減 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産育休復帰による給与費の増加、コロナ治療薬、検査試薬の購入による材料費の増加、補助金を利用した医療機器の購入に係る減価償却費の増加等により、医業費用は計画に対し 81,260 千円の増 <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床確保料を含まない損益で、173 百万円の損失 				

2-2 こころの医療センター駒ヶ根

【理 念】

- 1 私たちは、患者さんの人権を尊重し、信頼される医療サービスを提供します。
- 2 私たちは、長野県の精神科医療の中核病院として、質の高い専門医療を提供します。
- 3 私たちは、医療安全を推進し、人にやさしい病院を目指します。

【基本方針】

- 1 患者さん一人ひとりと向き合い、権利の尊重と個別性への配慮に努めます。
- 2 救急・急性期を始めとする地域のニーズに応えるとともに、長野県の精神科医療の中核を担います。
- 3 良質で安全な精神科医療を提供すべく、専門的知識の習得と医療技術の向上に努めます。
- 4 多職種チーム医療を実践します。
- 5 保健・医療・福祉・教育機関と連携して、患者さんの地域生活を支援します。
- 6 精神科医療を担う人材育成と医療の質の向上のための研究・研修に取り組みます。

2-2-1 総合評価

【成 果】

ア 第3期中期計画の主要事業の実施状況

- ・精神科訪問看護ステーション「こまほす」の開所（令和4年8月）
精神障害者が地域の一員として、安心して生活ができるよう専門性の高い精神科訪問看護を提供するため訪問看護ステーション「こまほす」を開所
- ・インターネット・ゲーム依存症治療への対応（令和4年5月治療プログラム開始）
先進病院の取り組みを参考に、令和2年度から試験的に患者の受入れを行い、治療評価後、病院独自の治療の枠組みを確立させ、令和4年4月から家族向けの学習プログラムを開始、その後、5月から入院・外来治療プログラムを開始
- ・rTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）の開始（令和4年7月）
「治療抵抗性うつ病」の患者に対し、薬物療法ではない新たな治療の選択肢として、侵襲性の低い治療法となるrTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）を開始（県内2施設目）
- ・子どものこころ専門医研修施設群認定（令和4年4月運営開始）
児童・思春期、青年期精神科医療の医師育成を行うため、小児科専門医と精神科専門医の双方を基盤領域とする「子どものこころ専門医」の養成を目的とした、子どものこころ専門医研修施設群の基幹施設として、県立こども病院、信州大学子どものこころ診療部を連携施設とした運営を開始
- ・看護師の二交代制勤務の本格導入（令和4年8月）
看護職員のワークライフバランス充実のため、令和3年11月より試行的に実施していた病棟部門における二交代制勤務を令和4年8月より本格導入
- ・「子どものこころ総合医療センター」基本計画案の策定（令和4年9月）
児童・思春期、青年期精神科医療の充実のための「子どものこころ総合医療センター」の開設に向け、構想の意義や目的、センターに必要な機能や設備等を盛り込んだ基本計画案を策定

イ 精神科救急医療の提供

- ・24時間365日対応により措置入院患者等を受入れ

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
措置入院患者数	12 人	9 人	3 人

・ウォークイン救急患者（外来救急患者）への速やかで適切な入院治療を提供

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
ウォークイン 救急患者数	44 人	42 人	2 人
うち入院	24 人	17 人	7 人
入院割合	54.5%	40.4%	14.1 ポイント

・専門医療の提供

クロザピン（治療抵抗性統合失調薬）の投薬、m-ECT（修正型電気痙攣療法）の治療、新たに rTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）を令和 4 年 7 月から開始

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
クロザピン（治療抵抗性統合失調薬）の投薬実人数	15 人	13 人	2 人
m-ECT（修正型電気痙攣療法）治療実施件数	172 件	101 件	71 件
r TMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）治療実施件数	28 件	—	28 件

ウ インターネット・ゲーム依存症医療の提供

社会的に治療ニーズが高まっているインターネット・ゲーム依存症治療において、令和 4 年 4 月から新たに家族向け学習プログラムを開始（月 1 回）、5 月から入院・外来治療プログラムを開始

項目	R 4 上半期実績	前年度 上半期実績	対前年度実績
家族学習 プログラム	21 家族（28 人）	—	21 家族（28 人）
治療 プログラム	3 人 （入院 1 人、外来 2 人）	—	3 人 （入院 1 人、外来 2 人）

エ 児童・思春期精神医療の提供

児童・思春期、青年期精神科医療の充実のため、信州大学医学部と連携した「信州型モデル病院」を目指して、現状や課題、ニーズを整理し「専門医療、次世代型デイケア、人材育成、支援者支援」の 4 つの柱を掲げ、センターに必要な入院・外来、その他機能や部門別計画、収支計画を盛り込んだ基本計画案を策定

オ 認知症専門医療の提供

認知症疾患医療センターにおける専門医療相談等の実施

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
専門医療 相談	電話 396 件	606 件	△210 件
	面接 232 件	307 件	△75 件

	計	628 件	913 件	△285 件
もの忘れ外来件数		958 件	1,056 件	△98 件
うち鑑別診断		56 件	61 件	△5 件

カ 精神科訪問看護の実施

初回入院患者の退院後毎週訪問（1 か月間）等の実施により 3 か月以内再入院を抑制

項目	R 4 上半期実績	R 4 上半期年度計画	対年度計画	前年度上半期実績	対前年度実績
訪問看護件数	966 件	1,206 件	△240 件	811 件	155 件
再入院率	17.3%	—	—	20.8%	3.5 ポイント

キ 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し児童虐待や自殺企図児童などの緊急入院に対応

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
新規入院患者数	24 人	24 人	0 人
うち緊急・優先入院	12 人	3 人	9 人

ク 医療従事者の養成と専門性の向上

初期研修医制度の精神科必須化に伴い研修医を受入れ

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
初期研修医	8 人	8 人	0 人

ケ 信州大学との連携

連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る臨床研究を実施

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
連携大学院生在籍数	2 人	2 人	0 人

コ 働き方改革

看護職員のワークライフバランス充実のため、令和 3 年 11 月より試行的に実施していた病棟部門における二交代制勤務を令和 4 年 8 月より本格導入

サ 職員の勤務環境の向上

二交代制勤務の実施、振替休日の取得の徹底、勤務時間管理及び業務の効率化により超過勤務時間を削減

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
総超過勤務時間	3,181 時間 28 分	4,756 時間 53 分	△1,575 時間 25 分

シ 費用の抑制

時差勤務等の勤務時間管理、業務の効率化及びセクションごとの目標値（昨年比2割減）設定により、超過勤務手当を縮減

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
超過勤務手当縮減額	9,597,820 円	16,197,927 円	△6,600,107 円

ス 新型コロナウイルス感染症への対応

精神疾患を有する感染者の入院受入体制を継続

【感染者等受入数】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
感染者受入数	0 人 延べ 0 日	2 人 延べ 32 日	△2 人 △32 日
疑い患者受入数	0 人 延べ 0 日	8 人 延べ 23 日	△8 人 △23 日
計	0 人 延べ 0 日	10 人 延べ 55 日	△10 人 延べ △55 日

【検査件数】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
P C R検査※	222 件	57 件	165 件
抗原定性検査	168 件	16 件	152 件
計	390 件	73 件	317 件

※令和3年12月までは外部委託、令和4年1月から院内検査を開始

【ワクチン接種件数】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
住民	165 件	244 件	△79 件
医療従事者	197 件	906 件	△709 件
計	362 件	1,150 件	△788 件

2-2-2 経営指標等

【経営指標】

こころの医療センター駒ヶ根 令和4年度上半期実績

項目	区分	R4上半期実績	年度計画	対年度計画比	前年度上半期実績	対前年度比
延患者数	入院	18,216人	19,417人	93.8%	16,613人	109.6%
	外来	19,459人	20,177人	96.4%	19,632人	99.1%
新患者数	入院	259人	266人	97.4%	250人	103.6%
	外来	760人	638人	119.1%	637人	119.3%
1人1日 当たり 診療単価	入院	29,204円	27,629円	105.7%	27,976円	104.4%
	外来	7,196円	7,122円	101.0%	6,879円	104.6%
医業収益	入院	531,986千円	536,466千円	99.2%	464,760千円	114.5%
	外来	140,018千円	143,706千円	97.4%	135,052千円	103.7%
	合計	672,004千円	680,172千円	98.8%	599,812千円	112.0%
平均在院日数		70.7日	70.0日	+0.7日	62.9日	+7.8日
病床利用率		76.1%	81.1%	△5.0ポイント	69.2%	6.9ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数 8月の県からの「新型コロナウイルス感染症即応病床」の増床要請を受けて入院抑制を実施したため、対計画で患者数が減少 ・入院単価 診療単価の高い児童精神科病棟と医療観察法ユニットの高稼働により、対計画で単価が上昇 ・平均在院日数 延患者数の増加により、対計画、対前年ともに日数が延伸 ・病床利用率 5月から7月の3ヶ月間、診療単価の高い病棟を中心に80%を超える状況が続いた。しかし、8月、県からの即応病床増床要請により退院促進、入院抑制を行って以降は、患者数が回復せず、対計画で利用率が低下 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数 外来の新患者数は計画を上回ったものの、再診の減少、新型コロナウイルス感染拡大のため、昼食提供なしのデイケアを実施したことにより患者数が下回り、対計画、対前年ともに患者数が減少 ・外来単価 昼食提供なしのデイケアを継続、診療単価の高い「訪問看護ステーションこまほす」の新たな開設に伴い、対計画、対前年ともに単価が上昇 					

項目	R 4 上半期 実績	年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度実績
紹介率	45.8%	55.0%	△9.2ポイント	47.9%	△2.1ポイント
逆紹介率	33.4%	40.0%	△6.6ポイント	39.7%	△6.3ポイント
コメント	<p>◆紹介率 ・紹介患者数自体は対前年と横ばいであったが、分母である初診患者数が職員等の新型コロナウイルス感染症検査により増加し、対計画、対前年ともに低下</p> <p>◆逆紹介率 ・近隣クリニックの初診が3か月以上の待ちの状態であり、逆紹介が難しい状況であったため、対計画、対前年ともに低下</p>				

【損益計算書】

こころの医療センター駒ヶ根

(税抜、単位：千円)

科目	R 4 上半期 累計 a	R 4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R 3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	1,143,078	1,098,897	44,181	1,065,857	77,221
医業収益	678,180	685,926	△ 7,746	608,744	69,436
運営費負担金収益	378,857	378,856	1	373,537	5,320
その他経常収益	86,042	34,115	51,927	83,577	2,465
経常費用 (イ)	1,065,327	1,106,444	△ 41,117	1,070,176	△ 4,849
医業費用	1,027,499	1,069,545	△ 42,046	1,031,856	△ 4,357
給与費	719,350	741,044	△ 21,694	724,677	△ 5,327
材料費	54,725	59,146	△ 4,421	52,156	2,569
減価償却費	95,411	100,108	△ 4,697	94,444	967
経費	155,128	166,086	△ 10,958	157,841	△ 2,713
研究研修費	2,886	3,162	△ 276	2,739	147
財務費用	15,252	15,169	83	16,282	△ 1,030
その他経常費用	22,575	21,730	845	22,038	537
経常損益 (ア-イ)	77,751	△ 7,547	85,298	△ 4,319	82,070
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	77,751	△ 7,547	85,298	△ 4,319	82,070
病床確保料(エ)	51,901	0	51,901	48,919	2,982
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	25,850	△ 7,547	33,397	△ 53,238	79,088
コメント	<p>◆経常収益 ・8月に県から「新型コロナウイルス感染症即応病床」の増床要請を受けて入院抑制を実施したため、対計画で入院収益が減少</p> <p>◆経常費用 ・給与費において超過勤務手当の縮減、退職給付引当金繰入額等の減により、対計画、対前年ともに減少</p>				

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器（CT）の購入先送りにより、減価償却費は対計画で減少 ・経費は委託料の減等により、対計画、対前年ともに減少 ◆経常損益 ・診療単価の増加により病床確保料を除き約 2,585 万円の収益
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設

【理 念】

- 1 私たちは、地域の中核病院として、質の高い適正な医療を提供します。
- 2 私たちは、患者さんの人権を尊重し、明るく、やさしさと思いやりのある医療を提供します。
- 3 私たちは、地域の保健・医療・福祉機関との連携のもと、地域に根ざした医療を提供します。

【基本方針】

- 1 患者さんとその生活の全てを総合的に診る全人的医療の実践に努めます。
- 2 交通事情や地域ニーズに合った巡回診療、訪問診療・看護・リハビリなどの在宅医療を行い、利便性向上と地域医療の提供に努めます。
- 3 認知症患者などに適切な医療を提供できるよう、地域の関係者と勉強会を実施するなど連携を強化し、地域全体で高齢者を支えます。
- 4 下伊那南部地域唯一の病院として、年間を通して休日・夜間患者などの救急患者の診療を行います。
- 5 下伊那南部地域唯一の病院として、疾病の予防・早期発見及び治癒に寄与できるように、体制や医療機器の充実に努めます。
- 6 地域住民との連携を図るために積極的な情報発信や交流を行います。
- 7 「人材確保」のために必要な環境整備に努めるとともに、「人材育成」のため院内研修会などの充実に努めます。

2-3-1 総合評価

【成 果】

ア へき地医療の取組

- ・病院への来院が難しい阿南町和合地区における巡回診療を実施（月2回）
- ・常勤医師が不在となった売木村診療所へ代診医師を派遣（週1回）
- ・売木村診療所の診療回数を増やすため、病院と診療所をインターネット回線で結ぶオンライン診療を開始（週1回）

【診療実績】

区 分	項 目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
巡回診療	回 数	13回	13回	± 0 回
	延べ患者数	38人	34人	4人
売木村診療所派遣	対面診療	23回	23回	± 0 回
	オンライン診療	20回	—	皆増

(注) 売木村診療所の患者は阿南病院の患者ではないため、患者数は未記載

イ 在宅医療の推進

- ・訪問診察、訪問看護、訪問リハビリ、服薬指導等を実施することで在宅医療を推進

【実施件数】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
訪問診察	107 件	160 件	△53 件
訪問看護	1,292 件	1,495 件	△203 件
訪問リハビリ	438 件	529 件	△91 件
訪問薬剤指導	17 件	12 件	5 件
合計	1,853 件	2,196 件	△343 件

ウ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染者の受入れ及び検査を実施
- ・新型コロナウイルス第7波到来による感染者急増により増加した発熱外来受診者に対応、休日検査を実施

【感染者等受入数】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較	
入院患者	人数	20 人	37 人	△17 人
	延べ日数	153 日	279 日	△126 日
発熱外来受診者数	1,136 人	217 人	919 人	

【検査件数】

検査種類等	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
P C R検査	1,501 件	599 件	902 件
抗原定性検査	442 件	3 件	439 件
計	1,943 件	602 件	1,341 件

- ・クラスターが発生した周辺介護施設等へ感染管理認定看護師を派遣（4回）
- ・感染症患者入院時における病床の効率的な運用に向け、3階病棟の改修工事を実施

エ 新型コロナウイルスワクチンの接種

- ・下伊那南部5町村と連携し、新型コロナウイルスワクチン4回目の住民接種を実施。一般住民への接種のほか、医療従事者への接種、当院が施設医を務める高齢者施設等の入所者への接種、外出が困難な患者宅を訪問しての接種を実施
- ・5町村の5～11歳小児を対象とする1・2回目の新型コロナウイルスワクチン接種を一手に引き受け病院内で実施

【ワクチン接種実績】

接種対象	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
一般住民	1,753 件	5,255 件	△3,502 件
医療従事者	229 件	597 件	△368 件
小児	340 件	—	皆増
計	2,322 件	5,852 件	△3,530 件

オ 地域包括ケア病床の運用

- ・地域包括ケア病床（16床）の利用率を高めるため、週1回、多職種が参加する入退院調整会議を開催。自宅・老人保健施設からの直接入院や在宅復帰率の向上に向け調整を図る

【地域包括ケア病床利用実績】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
利用者数	2,128人	1,704人	424人

カ 近隣の医療機関・社会福祉施設との連携強化

- ・当院の医療機器の有効利用と近隣の診療所における診断範囲の向上を図るため、CT及びMRIの機器共同利用を開始（2診療所、依頼件数26件）

【共同利用実績】

機 器	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
C T	18件	—	皆増
M R I	8 件	—	皆増

- ・下伊那南部地域の社会福祉施設と当院とで構成する「地域医療福祉連携会議」を、四半期毎に開催し、入所施設の当院に対するニーズや施設の問題点、課題の把握に努めた。施設へのリソースナース（専門看護師、認定看護師、特定看護師）の派遣、当院と食形態を共通化する施設が出てくるなど会議開催の成果が表れつつある。

キ 認知症の専門医療の提供

- ・高齢の入院患者が多い状況を背景に、入院早期からせん妄リスク因子をスクリーニングし、ハイリスク患者に対して非薬物療法（院内デイサービスなど）を中心とするせん妄対策を実施。併せて「せん妄ハイリスク患者ケア加算」を算定

【ケア加算算定実績】

加算内容	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
せん妄ハイリスク患者ケア加算	235件	37件	198件

ク 県内医療に貢献する医療従事者の確保・養成

- ・阿南高等学校、信州木曾看護専門学校への講師派遣及び実習生受入により医療従事者の確保・養成に尽力

【派遣・受入実績】

区 分	状 況
講師派遣	阿南高等学校福祉コース14回（介護福祉員）、信州木曾看護専門学校2回（看護師）
実習生受入	飯田女子短大12人・10日間、信州木曾看護専門学校 計23人・4日間

ケ 安全で信頼できる医療の提供

- ・入院当初から退院支援を行うことで患者・家族が安心できるよう地域連携室へ専従看護師を配置
- ・摂食嚥下障害看護認定看護師を中心に、多職種が参加する「摂食嚥下チーム」の活動を継続し、高齢者に多い誤嚥の減少に取り組む

コ 医療サービスの向上

- ・個室病室1室をトイレ、シャワー付きに改修し、患者のニーズに対応した入院環境を整備

サ 先端技術の活用

- ・当院から医師を派遣している売木村診療所の診療回数を増やすため、オンライン診療を導入(再掲)

シ 出前講座の実施

- ・当院職員の専門知識を生かし、地域住民の健康意識の向上や病院の情報発信となるよう「出前講座」(メニュー29講座)を企画。地域からの要望に応じて医師やリソースナースを派遣(6回実施、108人参加)

ス 中学校BLS講習会の開催

- ・下伊那南部地域の中学生が緊急時に一次救命措置(Basic Life Support)が行えるよう、本部研修センターの協力を得ながら、人口呼吸の仕方やAED(自動体外式除細動器)の取り扱いを学ぶ講習会を開催

【開催実績】

項目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
学校数	3校	3校	±0
参加者数	44人	58人	△14人

セ 働き方改革への対応

- ・当院から医師を派遣している売木村診療所の診療回数を増やしつつも医師の負担軽減を図るため、オンライン診療を導入(再掲)
- ・医師の業務負担軽減を図るため非常勤当直医師を雇用

ソ 収益の確保

- ・入院診療単価の増を図るため、診療報酬改定で評価の高くなった地域包括ケア病床における自宅・老人保健施設からの直接入院や他院からの転院患者の積極的な受け入れ

【地域包括ケア病床初期加算の状況】

区分		R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
入院	自宅から	430件 1,724千円	383件 1,149千円	47件 575千円
	介護老人保健施設から	43件 215千円	—	皆増
転床	自院の一般病床から	674件 843千円	589件 884千円	85件 △41千円
転院	他院の一般病床から	145件 363千円	—	皆増

- ・入退院支援加算1の算定フローを見直し、地域連携室と病棟の役割の明確化・合理化を図り、算定数増加に繋げた。(39件増 前年同期比176%増)

【算定実績】

加算内容	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
入院支援加算 1	90件	51件	39件

タ 介護サービスの提供

①阿南病院訪問看護ステーションさくら

- ・当院による運営3年目となる訪問看護ステーションさくらの安定的な運営に努め、下伊那南部地域の在宅看護の体制を維持

【訪問実績】

項 目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
患者数	267人	295人	△28人
訪問件数	1,292件	1,495件	△203件

②阿南介護老人保健施設

- ・在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、従来からの「在宅超強化型」の単位数算定に加え、科学的介護推進システム（LIFE）によるデータ提出の開始による「科学的介護推進体制加算」の算定が可能となり、入所単価が向上

【利用者数】

項 目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
延べ入所者数	7,188 人	7,181 人	7 人
延べ通所者数	390 人	332 人	58 人

【介護保健施設サービス費】 ※基本サービス料+加算金額

項 目	R 4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度比較
算定件数	7,188 件	7,181 件	7 件
算定金額	73,991 千円	69,918 千円	4,073 千円

(注) 対前年度比較において、算定件数の伸びに比べ算定金額の増が著しいのは、前年度下半期から「超強化型」の算定により1件当たりの算定金額が上昇しているため。

2-3-2 経営指標等

【経営指標】

1 阿南病院 令和4年度上半期実績

項目	区分	R4 上半期実績	上半期 年度計画	対上半期 年度計画比	前年度 上半期実績	対前年度 上半期比
延患者数	入院	7,487人	7,326人	102.2%	7,684人	97.4%
	外来	23,574人	22,131人	106.5%	27,771人	84.9%
新患者数	入院	415人	402人	103.2%	443人	93.7%
	外来	1,809人	1,325人	136.5%	1,385人	130.6%
1人1日 当たり 診療単価	入院	34,481円	32,449円	106.3%	32,726円	105.4%
	外来	9,944円	8,900円	111.7%	9,242円	107.6%
医業収益	入院	255,061千円	237,993千円	107.2%	249,349千円	102.3%
	外来	195,651千円	180,157千円	108.6%	189,396千円	103.3%
	合計	450,712千円	418,150千円	107.8%	438,745千円	102.7%
平均在院日数 (一般病棟)		14.9日	17.0日	△2.1日	15.0日	△0.1日
病床利用率		55.6%	56.0%	△0.4ポイント	56.5%	△0.9ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者数は、新型コロナウイルス感染症対応のための入院制限を行った影響などにより、計画は上回ったものの対前年度を下回った。 診療単価は、地域包括ケア病床において自宅・施設からの入院患者数の増、一般病床における平均在院日数の短縮及び注射薬等の使用増等により、計画・前年度をともに上回った。 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者数は、新たな医師が着任した天龍村在住者の減や新型コロナウイルスの影響による減少はあるものの、発熱外来患者及び新型コロナウイルスワクチン接種による公衆衛生活動により、計画・前年度をともに上回った。 診療単価は、発熱外来の患者数が増加したこと等により、計画・前年度をともに上回った。 					

項目	R4 上半期実績	上半期 年度計画	対上半期 年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 上半期実績
紹介率	23.8%	20.0%	3.8ポイント	38.4%	△14.6ポイント
逆紹介率	20.7%	15.0%	5.7ポイント	22.2%	△1.5ポイント
コメント	<p>◆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 初診患者の増及びコロナ入院患者の紹介が減少したことにより、計画は上回ったものの前年度を下回った。近隣の診療所からの紹介患者は、前年度と同水準で推移している。 <p>◆逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度より増加しているが、初診患者の増により対前年度を下回った。 				

2 阿南病院訪問看護ステーションさくら 令和4年度実績

項目	R4 上半期実績	上半期 年度計画	対上半期 年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 上半期実績
利用者数	1,292件	1,450件	89.1%	1,495件	86.4%
コメント	<p>◆利用者数 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う利用控えなどにより、計画・前年度をともに下回った。</p>				

3 阿南介護老人保健施設 令和4年度実績

項目	区分	R4 上半期実績	上半期 年度計画	対上半期 年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 上半期実績
利用者数	入所者	7,188人	7,000人	102.7%	7,181人	100.1%
	通所者	390人	330人	118.2%	332人	117.5%
1人1日 当たり単価	入所	11,675円	11,371円	102.7%	10,992円	106.2%
	通所	10,949円	11,000円	99.5%	11,132円	98.4%
営業収益	入所	83,922千円	79,599千円	105.4%	78,935千円	106.3%
	通所	4,270千円	3,630千円	117.6%	3,696千円	115.5%
コメント	<p>◆入所 ・入所者数は、新型コロナウイルスに対する予防策を講じた上で計画的な入所に努めた結果、計画・前年度をともに上回った。 ・入所収益は、入所者数の増加及び基本サービス料の施設基準における「超強化型」の単位数算定の維持による収益力向上により、計画・前年度をともに上回った。</p> <p>◆通所 ・通所者数は、安定した利用が続いていることに加え、新規利用者の獲得や既存利用者の利用回数増によって、計画・前年度をともに上回った。 ・通所収益は、通所者数の増加により計画・前年度をともに上回った。</p>					

【損益計算書】

1 阿南病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	1,098,362	848,852	249,510	1,103,242	△4,880
医業収益	475,119	443,417	31,702	475,584	△465
運営費負担金収益	378,979	378,979	0	374,184	4,795
その他経常収益	244,264	26,456	217,808	253,474	△9,210
経常費用 (イ)	856,822	853,595	3,227	832,043	24,779
医業費用	824,817	822,659	2,158	800,122	24,695
給与費	485,807	473,427	12,380	480,618	5,189
材料費	76,534	73,082	3,452	68,867	7,667
減価償却費	111,562	113,363	△1,801	99,380	12,182
経費	148,765	159,599	△10,834	148,889	△124
研究研修費	2,149	3,187	△1,038	2,367	△218
財務費用	7,688	7,725	△37	8,196	△508
その他経常費用	24,317	23,211	1,106	23,725	592
経常損益 (ア-イ)	241,540	△4,743	246,283	271,199	△29,659
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	241,540	△4,743	246,283	271,199	△29,659
病床確保料(エ)	217,473	0	217,473	226,916	△9,443
病床確保料を除く当期 純損益(ア-イ+ウ-エ)	24,067	△4,743	28,810	44,283	△20,216
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院・外来収益は、診療単価の増等により、計画を上回った。 ・公衆衛生活動収益は、新型コロナワクチンの接種数が減少したことに伴い対前年度を下回った。 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料費は、円安による物価の高騰等により、計画・前年度をともに上回った。 ・経費は、電子カルテシステム更新による委託料の増、原油価格高騰による燃料費、電気料の増等により、計画・前年度をともに下回った。 				

2 阿南介護老人保健施設

(税抜、単位：千円)

科 目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	126,752	120,632	6,120	124,922	1,830
介護老人保健施設収益	103,816	97,638	6,178	96,836	6,980
運営費負担金収益	22,919	22,919	0	28,056	△5,137
その他経常収益	17	75	△58	30	△13
経常費用 (イ)	108,948	117,129	△8,181	107,715	1,233
介護老人保健施設費用	104,176	112,357	△8,181	102,092	2,084
給与費	70,226	74,497	△4,271	67,728	2,498
材料費	6,893	7,211	△318	6,796	97
減価償却費	11,441	11,733	△292	11,598	△157
経費	15,242	18,729	△3,487	15,917	△675
研究研修費	373	187	186	52	321
財務費用	2,215	2,215	0	3,316	△1,101
その他経常費用	2,558	2,557	1	2,307	251
経常損益 (ア-イ)	17,805	3,503	14,302	17,207	598
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	17,805	3,503	14,302	17,207	598
コメント	<p>◆経常収益 ・入所収益・通所収益ともに、利用者の増及び新規加算取得による入所単価・通所単価の増により、計画・前年度をともに上回った。</p> <p>◆経常費用 ・経費については、空調設備等の施設修繕、電気料の増等あったが、上半期は抑えられている。下半期は施設修繕が発生する見込み。</p>				

2-4 木曽病院・木曽病院介護医療院・木曽介護老人保健施設

【理 念】

私達は、患者さんの立場にたち、信頼と満足が得られて、心のふれ合いのある医療サービスを実践します。

【基本方針】

- 1 木曽で唯一の病院として、いつでも安心してかかることができる地域に信頼される病院をめざします。
- 2 人権を尊重し、十分な説明と同意（インフォームドコンセント）に基づいた医療サービスを提供します。とりわけチーム医療に取り組みます。
- 3 つねに新しい知識技術の習得に努め、地域に根ざした質の高い医療を提供します。とりわけ救急医療の充実に努めます。
- 4 町村や他の医療・福祉・保健・介護施設と連携を強化して、地域の要望に応えられるよう努めます。とりわけ在宅医療を充実します。
- 5 清潔、快適で安らぎのある療養環境の整備改善に努めます。
- 6 人間性にあふれた、働きがいのある病院運営に努めます。
- 7 健全経営の維持に努めます。

2-4-1 総合評価

【成 果】

ア 在宅医療の充実

在宅療養支援病院として、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保したが、施設に対する訪問診療の頻度を見直し、毎月訪問を3か月に1回の訪問に変更したことにより、訪問診療の実績件数が大幅に減少

項 目	R4 上半期 実 績	R4 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
訪問診療件数	120 件	250 件	△130 件	297 件	△177 件
訪問看護件数	1,864 件	2,100 件	△236 件	2,103 件	△239 件
訪問リハビリ件数	507 件	425 件	82 件	486 件	21 件
計	2,491 件	2,775 件	△284 件	2,886 件	△395 件

イ 産科医療の提供

- ・産科の療養環境改善のため、産科ユニットの改修を完了し、レディースゾーンの受入れを開始
- ・伊那中央病院と連携し、土日の緊急手術に備えた麻酔科医待機態勢を継続

項 目	R4 上半期 実 績	R4 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
分娩件数	45 件	40 件	5 件	41 件	4 件

ウ へき地医療の提供

- ・巡回診療の実施により、無医地区の医療環境の確保に貢献

地区名	R4 上半期 実績	R4 上半期 年度計画	対年度計画	前年度上半期 実績	対前年度 実績
台	4回 (4人)	6回 (12人)	△2回 (△8人)	4回 (4人)	△0回 (△0人)
才児	5回 (5人)	6回 (12人)	△1回 (△7人)	6回 (17人)	△1回 (△12人)

- ・木曾町ひよし及びみたけ診療所医師の体調不良に伴い、11月から医師派遣を決定

エ 診療機能の充実

- ・地域がん診療病院として令和3年4月に歯科口腔外科を開設し、週1回行っていた診療に関して、令和4年4月からは、診療を週1回から2回とし、診療機能を充実

項目	R4 上半期 実績	前年度 上半期実績	対前年度 実績
歯科口腔外科 患者数	511件	191件	320件

- ・地域の要望により令和4年6月から月1回、児童思春期発達外来を開設

オ 災害医療の提供

- ・災害拠点病院及びDMAT（災害派遣医療チーム）指定病院として、スタッフを積極的に研修等へ参加させ、体制を維持
- ・災害発生時において必要な医療を確実に提供するため、5月の電子カルテ更新に合わせて、電子カルテデータの遠隔バックアップの仕組みを整備

カ 認知症医療の充実

令和4年4月1日に長野県から認知症疾患医療センター（連携型）の指定を受け、認知症疾患医療センター運用フローを作成し活動を開始

- 認知症疾患医療センターへの相談窓口として、直通電話及び直通メールを設置
- 患者サポートセンターや脳神経内科窓口においても相談を受付

キ 介護サービスの充実

(介護医療院)

- ・多職種との連携を強化し、入所者のニーズに応じた生活支援を実施

(木曾介護老人保健施設)

- ・在宅超強化型の算定を6月から開始したことで、自宅での生活能力向上に向けた支援を実施するとともに入所単価向上を図った
- ・多職種による自宅訪問を実施し、在宅復帰に重点を置いたサービスを提供

ク 地域包括ケアシステムの推進

在宅療養支援病院として24時間往診（医師）と訪問看護の体制を確保し、緊急時の迅速な対応を実施

ケ 医療等サービスの一層の向上

- ・ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づくリビングウィル（事前指示書）について、ポスターの院内掲示、パンフレットの設置、患者サポートセンター内に相談窓口を設置するなど取組を推進
- ・ 電子カルテ更新による番号案内表示システム、自動精算機の導入

コ 先端技術の活用

- ・ 外来診療における A I 問診サポートの活用
- ・ 院内の無線通信環境を整備し、医療従事者間の情報共有を推進

サ 京セラ式アメーバ経営の運用の推進

- ・ 時間当たり採算指標と B S C を用い、毎月リーダー面談を行い、課題の取組状況の確認を実施
- ・ 4 月、8 月には、院長・事務部長面談を実施し、課題を共有
- ・ 経営改善ニュースを発行し、運営委員会で時間当たり損益及び各部署の取組状況の共有を実施
- ・ アメーバ経営の運用及び病院機能評価の受審準備にあたって、課題の抽出、課題解決への進捗管理等、医療の質の継続的な改善を確保するため、院内で積極的に取り組む職員を QM 推進員に任命し、院内での活動を開始

シ 働き方改革への対応

- ・ 信州大学医学部附属病院医師によるスポット当直を活用し医師の負担を軽減（上半期 9 回）
- ・ 当直明け等の職務専念義務免除制度の取組（上半期 延べ 10 人活用）
- ・ コンサルタントを活用した医師の超過勤務縮減等の働き方改革の推進
- ・ 特定看護師及び診療看護師の育成強化
- ・ クリニカルパスの導入推進
- ・ 多様な業務に対応するため、医師を始めとして時差出勤を導入
- ・ 血液浄化療法室の臨床工学技士とのタスクシフト
- ・ 看護師の夜勤者ユニフォームの導入による超勤削減
- ・ 医師事務作業補助者を増員、業務内容の拡大化を推進
- ・ 法令改正に基づく臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士へのタスクシフト推進にあたり職能団体の研修受講の推奨
- ・ ホームページ、広報等を通じ町村へ「働き方改革」の取組を周知

ス 収益の確保

（病院）

- ・ R4 診療報酬改定に伴い新規加算の届出（令和 4 年 4 月）

項 目	R4 上半期実績
感染対策向上加算 1	6, 6 9 5, 3 0 0 円
指導強化加算	2 8 2, 9 0 0 円
外来腫瘍化学療法診療料 1	1, 3 3 9, 0 0 0 円

- ・ 患者の入院期間の情報管理を徹底し、D P C 入院期間を意識したベッドコントロールにより診療単価を維持

(老健)

- ・収益増の観点から新規加算の届出(令和4年6月)

項目	R4上半期実績
在宅復帰在宅療養支援加算Ⅱ (老健超強化型)	1,370,340円

セ 費用の抑制

- ・SPDシステム導入に向けた体制・運用整備

ソ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・第2種感染症指定医療機関及び重点医療機関として、感染拡大に対応
- ・感染者の受入れ、発熱外来及び自費での新型コロナウイルス検査の継続

【感染者等受入数】

項目	R4上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
感染者受入数	29人 延べ237日	23人 延べ183日	6人 54日
疑い患者受入数	1人 延べ2日	2人 延べ11日	△1人 △9日
計	30人 延べ239日	25人 延べ194日	5人 45日

【検査件数等】

検査種類等	R4上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
PCR検査	1,385件	183件	1,202件
抗原定性検査	0件	0件	-
抗原定量検査	1,497件	1,816件	△319件
計	2,882件	1,999件	883件

【発熱外来受入れ】

区分	R4上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
発熱外来受入れ	1,733人	979人	754人

【ワクチン接種件数】

項目	R4上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
住民	0件	223件	△223件
医療従事者	527件	1,294件	△767件
計	527件	1,517件	△990件

- ・感染者の受入れ体制

感染症病棟4床、4階病棟6床にて対応

- ・住民への新型コロナワクチン接種に伴う町村の支援
- ・オンライン面会の実施

2-4-2 経営指標等

【経営指標】

1 木曽病院 令和4年度上半期実績 ※延患者数には介護医療院を含む

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	20,705人	23,078人	89.7%	23,620人	87.7%
	外来	57,591人	58,596人	98.3%	59,330人	97.1%
新患者数	入院	1,010人	—人	—%	1,248人	80.9%
	外来	3,258人	—人	—%	3,684人	88.4%
1人1日 当たり 診療単価	入院	35,854円	35,769円	100.2%	36,532円	98.1%
	外来	11,941円	12,597円	94.8%	12,642円	94.5%
医業収益	入院	762,772 千円	826,809 千円	92.3%	861,799 千円	88.5%
	外来	664,212 千円	685,906 千円	96.8%	706,058 千円	94.1%
	合計	1,426,984 千円	1,512,715 千円	94.3%	1,567,222 千円	91.1%
平均在院 日数		12.1日	21.0日	△8.9日	12.8日	△0.7日
病床利用 率		61.9%	68.9%	△7.0 ポイント	70.5%	△8.6ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者数 職員及び患者の新型コロナウイルス感染症の感染事例等もあり、入院患者が対前年及び計画値と比較し、大きく下回った。 ・入院単価 DPC入院期間Ⅱを基準とした適切なベッドコントロールに努めたが、単価の高い急性期病棟の患者数が減少していることに加え、眼科医師の療養休暇取得に伴い、単価の高い白内障手術が行えなかったことにより、単価自体も対前年に比べ減少した。 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数 入院患者数と同様、新型コロナウイルス感染症流行に伴う受診控えや外来休診等もあり、対前年及び計画値を下回った。 ・外来単価 電話診療の件数が増えており、単価が減少している。 					

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度	対前年度比
紹介率	18.0%	16.0%	2.0ポイント	17.4%	0.6ポイント
逆紹介率	31.0%	26.0%	5.0ポイント	29.6%	1.4ポイント
コメント	<p>◆紹介率 ・紹介率は今年度目標値を下げているため、上回ってはいるが紹介患者数自体はほとんど変わらない。</p> <p>◆逆紹介率 ・眼科手術を中止していることで他医療機関への逆紹介が増加した。</p>				

2 木曽病院介護医療院 令和4年度上半期実績

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	3,060人	3,285人	93.2%	3,214人	95.2%
コメント	・内外部からのニーズに応え積極的な受け入れを行った。また、お試し短期入所などから利用者獲得に努めた。				

3 木曽介護老人保健施設 令和4年度上半期実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	入所者	8,006人	7,555人	106.0%	7,555人	106.0%
	通所者	49人	50人	98.0%	0人	-
1人1日 当たり単価	入所	12,190円	11,985円	101.7%	11,802円	103.3%
	通所	10,072円	9,500円	106.0%	-	-
営業収益	入所	97,673千円	90,554千円	107.9%	89,165千円	109.5%
	通所	486千円	476千円	102.1%	-	-
コメント	<p>・入所者数 入所者の入院や予定外退所、入所予定者の家族都合による急なキャンセル等があったものの、短期入所の受入れや延長利用など、柔軟な対応と調整により、前年度以上の利用につなげることができた。</p> <p>また、令和4年6月から、在宅復帰指標の超強化型算定を取得していることもあり、在宅復帰に向けた入退所の調整に積極的に取り組んでいる。</p> <p>・通所者数 新型コロナウイルス感染症対策として受入停止をしていたが、令和3年12月から、週に1回(毎週水曜日)の受入れを再開している。利用者は限定されるものの、毎週3名程度が利用している。</p>					

【損益計算書】

1 木曽病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,139,040	2,067,064	71,976	2,282,446	△ 143,406
医業収益	1,484,573	1,562,584	△ 78,011	1,617,408	△ 132,835
運営費負担金収益	438,054	438,053	1	448,732	△ 10,678
その他経常収益	216,414	66,426	149,988	216,306	108
経常費用 (イ)	2,106,004	2,092,714	13,290	2,052,724	53,280
医業費用	2,034,875	2,021,367	13,508	1,976,067	58,808
給与費	1,202,584	1,150,624	51,960	1,186,039	16,545
材料費	341,776	344,972	△ 3,196	360,507	△ 18,731
減価償却費	187,708	188,838	△ 1,130	138,605	49,103
経費	298,810	331,864	△ 33,054	287,034	11,776
研究研修費	3,998	5,069	△ 1,071	3,881	117
財務費用	4,051	3,913	138	8,763	△ 4,712
その他経常費用	67,078	67,434	△ 356	67,895	△ 817
経常損益 (ア-イ)	33,036	△ 25,650	58,686	229,722	△ 196,686
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	33,036	△ 25,650	58,686	229,722	△ 196,686
病床確保料(エ)	140,367	0	140,367	142,994	△ 2,627
病床確保料を除く当 期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△ 107,331	△ 25,650	△ 81,681	86,728	△ 194,059
コメント	<p>◆医業収益 ・新型コロナウイルス感染症の入院患者及び職員の感染による診療の制限や外来・入院患者数の減により、対前年及び計画値を下回った。</p> <p>◆医業費用 ・産婦人科の診療体制変更に伴う非常勤医師の増、歯科口腔外科の診療日数の増などによる給与費の増により、対前年及び計画値を上回った。</p>				

2 木曾介護老人保健施設

(税抜、千円)

科 目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (7)	138,765	130,660	8,105	128,455	10,310
介護老人保健施設収益	114,215	106,398	7,817	103,729	10,486
運営費負担金収益	23,034	23,034	0	23,861	△ 827
その他経常収益	1,517	1,228	289	865	652
経常費用 (i)	123,929	127,068	△ 3,139	127,937	△ 4,008
介護老人保健施設費用	117,726	120,865	△ 3,139	120,570	△ 2,844
給与費	83,727	84,717	△ 990	85,620	△ 1,893
材料費	8,338	8,069	269	8,076	262
減価償却費	7,055	6,958	97	7,144	△ 89
経費	18,438	21,014	△ 2,576	19,636	△ 1,198
研究研修費	167	106	61	94	73
財務費用	3,395	3,395	0	4,436	△ 1,041
その他経常費用	2,809	2,809	0	2,931	△ 122
経常損益 (7-i)	14,836	3,592	11,244	518	14,318
臨時損益 (v)	0	0	0	0	0
当期純損益 (7-i+v)	14,836	3,592	11,244	518	14,318
コメント	<p>◆経常収益 ・対前年、計画値を超える利用者数、施設利用者単価により、経常収益は対前年、計画値を上回った。</p> <p>◆経常費用 ・職員の人員配置の見直し、コスト削減の徹底等により、対前年、計画値を下回った。</p>				

2-5 こども病院

【理 念】

わたし達は、未来を担うこども達とその家族のために、質が高く、安全な医療を行います。

【基本方針】

- 1 こどもと家族の権利の尊重
- 2 療育環境の充実
- 3 チーム医療の実践
- 4 医療従事者の育成
- 5 健全な病院経営

2-5-1 総合評価

【成 果】

ア 高度・専門医療の提供

○外来診療機能の強化

- ・令和4年5月から新外来診察室の運用を開始。増加傾向の外来患者への診療体制を強化し、小児アレルギー患者や成人への移行期患者などの高まる診療ニーズに対応。
- ・小児の新型コロナウイルス感染者の受入体制を継続し、増設した感染隔離室を活用した感染防止対策の徹底及び検査体制を維持。

○小児がん診療体制の強化

- ・令和4年4月に小児がんセンターを開設。長野県の小児がん連携病院として、院内の小児がん診療体制の整備・強化を図った。
- ・高次脳機能障害フォローアップ体制の強化を図るため、長野県立総合リハビリテーションセンターとの移行期医療の連携体制構築に向け準備を進めた。
- ・成人診療科と連携したがん医療の提供体制の整備に向けて、長野県がん診療連携協議会の活動への参加準備を進めた。

○児童精神科の診療体制整備

- ・令和4年4月常勤医師着任に伴い、外来診療やリエゾン体制等を整備し、多職種連携・チーム医療を推進し、院内外の児童精神科充実のニーズに対応している。

○オプションル新生児スクリーニング検査事業の開始

- ・当院の新規検査事業として、長野県から委託されている先天性異常等検査の追加検査という形で原発性免疫不全症及び脊髄性筋萎縮症に対する新生児スクリーニング検査開始に向けた準備を進め、早期診断・早期治療の体制を整備した。(令和4年10月1日から開始)

○重症心身障害児の側弯症手術の開始

- ・当院での側弯症手術開始に向けてWGを立ち上げ、院内多職種及び信州大学医学部附属病院整形外科とミーティングにより準備を進め、令和4年10月に第1例目手術を実施(毎月1例の手術実施予定)

○前年度に開設した各センターの取組推進

〔小児アレルギーセンターの取組推進〕

- ・長野県から「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定され、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施

人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県内の学校教諭、養護教諭に対して、アレルギーに関する正しい情報の研修を8回実施 ・外来及び入院時の食物経口負荷試験に関する研修を他院から20人受入
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者、学校関係者、保健師などを対象とした小児アレルギー相談用メールアドレスによる相談対応（相談件数4件）
疫学・臨床研究推進	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に昨年度実施した小児アレルギー診療の現状調査について小児科学会地方会にて発表 ・12月に全国アレルギー疾患拠点病院職員とその家族を対象とした全国疫学調査に参加予定

〔成人先天性心疾患センターの取組推進〕

- ・日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、同学会より「総合修練施設」に認定されている信州大学医学部附属病院と連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援
- ・信州大学医学部附属病院成人先天性心疾患センター、県内基幹施設循環器グループとの定期的な合同カンファランスを開催

〔移行期医療支援センターの取組推進〕

- ・小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めるため病院全体でサポートする体制を構築している。4月から9月までに15件の支援を行い、移行期医療支援外来を毎月4枠に増枠（前年度毎月3枠）

連絡会議・研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年7月に長野県がん疾病対策課、信州大学医学部附属病院信州がんセンター、当院移行期医療支援センターで共同して移行期医療支援体制検討会を開催 ・県内の移行期医療体制構築に向けて実態把握を進めるため、指定難病医を対象にアンケートを実施
就学・就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ・小児慢性疾患患者の準備性・社会性を整えるため、小学校入学前、中学卒業前に知能、発達検査を行い、患者の適性に配慮した就学・就労を目指した支援を患者・家族に実施（就労支援：個別相談延べ1人・集団講話（就労支援セミナー）2回9人、学習サポート：延べ14人）

○成育女性科外来の取組推進

- ・産科外来で適宜対応していた婦人科診療について院内に周知を行い、月経異常・無月経・月経痛などの症状で悩む患者及びその家族をケアし、治療や治療マネジメントを実施。外来患者数85件（前年上半期48件）の利用があり、院内認知が進み紹介元診療科の拡大と新規患者の紹介数が増加

○最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の継続

・あたまの形外来

広報や SNS などを通じた頭蓋変形に対する治療有効性、県内外の関連施設に対する当院での活動に対する認知度が上がり新規患者数が増加

項目	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
患者数	491 人	202 人	289 人
矯正用ヘルメット作成数	48 件	28 件	20 件

イ 小児高度救急医療の提供

・救急車やドクターヘリによる小児救急患者の受入及びドクターカーの出動により長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。

項目	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
小児緊急入院患者数	425 人	432 人	△7 人

・高度小児医療機能とチーム医療を発揮し、6月1日に県内初の未成年患者からの臓器提供を実施。

ウ 在宅医療の提供

・医療ケアを自宅で継続する患者への訪問診療の充実を図り、今年度の新規患者数は訪問診療 4 人、訪問リハビリ 4 人。訪問リハビリにて症状に合わせたポジショニングや移動支援を行い、終末期をできるだけ在宅で生活できるよう支援した。

項目	R4 上半期実績	R4 上半期年度計画	対年度計画	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
訪問診療・リハビリ	26 件	30 件	△4 件	24 件	2 件

エ 産科医療の提供

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響から回復し、対計画、対前年ともに上回った。

項目	R4 上半期実績	R4 上半期年度計画	対年度計画	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
分娩件数	162 件	150 件	16 件	156 件	6 件

オ 地域医療連携の推進

○病院将来構想の確立に向けた検討

- ・小児疾患動向の変化や地域から当院に期待される診療ニーズ等を踏まえ、更なる診療・ケアの質向上を図るため、病床運用の効率化と重点化を目的とした病棟再編成・集約化の検討を進めた。
- ・病院将来構想検討を進めるため患者及び家族との座談会の計画立案を行った。（2月下旬実施予定）

カ 地域の医療機関と連携した高度医療機器の共同利用

○放射線治療の拡充

- ・地域医療支援病院として、地域の医療機関と連携し成人を対象とした放射線治療の拡充に取り組んだ。リニアック更新のため7月から稼働停止となり件数が減少（12月下旬に治療再開予定）

項目	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
放射線治療人数	26 人	39 人	△13 人
放射線治療算定件数	499 件	716 件	△217 件
リニアック稼働額	6,710 千円	10,363 千円	△3,653 千円

※人数は延べ紹介数。件数は延べ照射回数と治療計画数の合算。稼働額は成人・小児の合算

○R I 検査機器による成人を対象にした認知症検査の実施

- ・令和3年9月から新たに成人対象の認知症検査を開始。近隣医療機関からの紹介を受けて令和4年4月から9月で16件実施（前年度21件）。下半期は更なる検査件数の増加を図る。

キ 医療従事者の養成と専門性の向上

○県内医療に貢献する医師の確保・養成

県内医療に貢献する医師の確保	・次年度採用専攻医に関し、オンラインによる病院見学会を開催し7名が参加
医師の養成、実習受入	・専攻医教育に関して、Webレクチャーや救急外来振り返りの会、救急シミュレーション教育を実施 ・信州大学医学部の講義や実習受入を継続（信州大学9名、順天堂大学1名、自治医科大学1名） ・初期研修医の研修受入（信州医療センター1人、相澤病院3人）
職員の養成と専門性の向上	・看護部では、認定看護管理者教育課程ファーストレベル2名、セカンドレベル2名、感染管理認定看護師教育課程1名受講終了。次年度は、集中ケア認定看護師、感染管理認定看護師、新生児看護認定看護師に3名受講予定 ・特定行為研修を1名が受講終了し、今後胃瘻外来等から業務開始予定 ・専門看護師の育成として小児看護と家族看護を検討中

○韓国ソウル国立大学病院との国際交流

- ・7月7日にソウル国立大学病院小児病院と交流推進に向けた覚書を締結した。ソウル国立大学病院小児病院より院長、医師3名、事務職員2名（合計6名）を当院に迎え、両国の病院長により覚書に署名がなされた。

○令和4年度二国間セミナー支援事業（トゥルク大学：フィンランド）

- ・8月8日～11日にフィンランド・トゥルク大学において二国間セミナーを実施し、当院から8名が参加（1名はWebで参加）。10月14日に日本学術振興会に最終報告書を送付した。

ケ 医療の質の向上に関すること

○敷地内薬局の誘致

患者の利便性向上と院内薬剤師の調剤業務の負担軽減、薬剤管理指導の充実を図るため、敷地内薬局誘致の検討を進め、令和4年11月2日に関東信越厚生局の了解が得られた。今後、地元薬剤師会への説明、公告、プロポーザル、契約等の手続きを進める。

○患者サポートセンターの取組推進

- ・前年度に設置された患者サポートセンターでは、今年度上半期に脳神経外科、泌尿器科、整形外科で新規介入を開始。下半期には新たに耳鼻科、循環器科（心臓カテーテル検査）に介入予定。
- ・上半期の患者対応実績は、小児外科39件、形成外科33件、脳神経外科8件、泌尿器科21件、整形外科2件、呼吸器乗り換え5件、入院説明 849件（上記実績を含む）。

・入退院支援加算実績（令和4年4月～9月）

前年と比較し実績が増加、今後業務範囲を拡大予定

項目	R4 上半期実績	前年度実績	対前年度実績
入院時支援加算 1 及び 2	31 件	5 件	26 件
入退院支援加算 1	444 件	376 件	68 件
入退院支援加算 3	124 件	107 件	17 件

○先端技術の活用

- ・来院の必要が無い患者に対する電話診療による処方箋を発行する診療体制を継続
- ・面会制限で患児と面会できない家族のためのオンライン面会システムについて、セキュリティ対策に配慮したシステム構築を行い、令和3年12月から運用を開始

項目	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
電話診療実施件数	185人	0人	185人
オンライン面会	14件	0件	14件

- ・オンライン診療開始に向けた準備を進め、令和4年11月より形成外科で開始予定
- ・オンライン産前保健指導の導入準備を進め下半期に開始予定

○連携大学院教育による研究活動の推進

- ・信州大学との協定に基づく連携大学院教育による職員の研究活動を推進し、専門性の高い医療従事者（医師10人、検査技師2人）を養成。学生数は新規進学者4人を加え合計12人に増加(内4名卒業予定)

項目	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
入学者数	4 人	3 人	1 人
セミナー開催	5 回	2 回	3 回

コ 働き方改革への対応

○医師の働き方改革への対応

- ・医師の働き方改革に対応するため、昨年度医師の労働時間短縮を推進するためコンサルタント業務の委託業者から受領した報告書を踏まえ、自己研鑽のルール化や主治医・担当医の体制整備等に努めたが、医師数の確保や変動の問題もあり、着実な成果が出るまでには至っていない。このため、9月に改めてコンサルタント業務を委託し、2月までに各種施策導入計画、医師労働時間短縮計画の策定に向けて対応していく予定である。
- ・医師事務作業補助者を13人配置し、医師の負担軽減を実施している。

○タスクシフト・シェアの推進

- ・医師から多職種へのタスクシフトを推進するため、医療技術職員等の研修受講を支援した。

○職員の勤務環境の改善

- ・新生児病棟看護師の夜間休憩時間確保のため、保育士の夜勤が4月より開始された。
- ・育児短時間制度、育児部分休業制度及び育児時間を看護職員33人、薬剤師2人、理学療法士1人、臨床検査技師2人、臨床心理技師1人の合計39人が活用し、子育てと仕事の両立を図っている。

サ 経営改善、経費削減の取組

○診療報酬改定に対応した収益増加の取組

- ・新設・拡大された施設基準や加算項目の算定強化を図るため、多職種連携やチーム医療体制の強化、必要な研修受講等を推進した。(増収見込：周術期薬剤管理加算 1,125 千円/年、術後疼痛管理チーム加算 390 千円/年、報告書管理体制加算 266 千円/年等)

○費用の抑制

- ・診療材料の価格交渉の強化及び同種同等品への切替により 5,565 千円削減、保守契約の仕様見直しにより委託料 1,250 千円削減等、コスト削減に努めた。

シ 新型コロナウイルス感染症への対応

○重点医療機関として小児重症患者受入体制を継続

項目	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
感染者受入数	22 人 延べ 77 日	23 人 延べ 23 日	△1 人 54 日

○検査件数

検査種類	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
P C R検査	1,682件	362件	1,320件

○ワクチン接種件数

項目	R4 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度上半期実績
住民	88件	54件	34件
医療従事者	464件	1,056件	△592件
計	552件	1,110件	△558件

2-5-2 経営指標等

【経営指標】

こども病院 令和4年度上半期実績

項目	区分	R4 上半期実績	上半期年度計画	対上半期年度計画比	前年度上半期実績	対前年度上半期比
延患者数	入院	23,427人	24,779人	94.5%	26,188人	89.4%
	外来	33,985人	33,782人	100.6%	33,449人	101.6%
新患者数	入院	1,827人	1,873人	97.5%	1,951人	93.6%
	外来	2,100人	1,881人	111.6%	1,905人	110.2%
1人1日 当たり 診療単価	入院	113,108円	107,600円	105.1%	103,040円	109.7%
	外来	13,269円	13,740円	96.6%	14,116円	93.9%
医業収益	入院	2,611,222	2,666,220	97.9%	2,674,242	97.6%

		千円	千円		千円	
	外 来	413,673 千円	464,166 千円	89.1%	448,311 千円	92.2%
	合 計	3,077,271 千円	3,170,562 千円	97.0%	3,122,553 千円	98.5%
平均在院日数		13.0日	13.4日	△0.4日	13.2日	△0.2日
病床利用率		64.9%	71.1%	△3.2 ^ポ イト	73.0%	△8.1 ^ポ イト
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者数 長期入院患者数の減少と平均在院日数の短縮、新型コロナウイルス感染症流行に伴う予定入院キャンセル等が影響し、延入院患者数は対計画94.5% (△1,352人)、新入院患者数は対計画97.5% (△46人) となった。 入院単価 診療報酬改定で新設・拡大された施設基準や加算項目の算定強化、DPC係数の向上等により、対計画、対前年ともに上回った。 平均在院日数 長期入院患者の減による短縮 病床利用率 長期入院患者数の減、平均在院日数の短縮 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来患者数 新外来患者数は対計画111.6% (+219人) と増加傾向を維持し、延外来患者数は対計画100.6% (+203人)、対前年101.6% (+536人) と上回った。 外来単価 リニアック装置更新に伴う放射線治療の休止、再診料の減 (乳幼児感染対策管理加算の廃止) 等により対計画、対前年ともに下回った。 					
項 目	R 4 上半期 実績	R 4 年度計画	対上半期 年度計画比	前年度上半 期実績	対前年度 上半期比	
紹介率	73.8%	71.0%	2.8 ^ポ イト	69.8%	4.0 ^ポ イト	
逆紹介率	80.7%	78.0%	2.7 ^ポ イト	77.4%	3.3 ^ポ イト	
コメント	<p>◆紹介率、逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介率、逆紹介率ともに、地域医療支援病院の要件 (紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上) を満たし対計画、対前年を上回った。 					

【損益計算書】

こども病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	4,206,435	4,178,351	28,084	4,314,115	△107,680
医業収益	3,077,271	3,170,562	△93,291	3,162,141	△84,870
運営費負担金収益	884,115	884,115	0	896,788	△12,673
その他経常収益	245,049	123,674	121,375	255,187	△10,138
経常費用 (イ)	4,168,243	4,275,816	△107,573	4,201,511	△33,268
医業費用	4,009,594	4,117,267	△107,673	4,035,041	△25,447
給与費	2,406,897	2,406,259	638	2,383,753	23,144
材料費	674,961	688,268	△13,307	710,581	△35,620
減価償却費	342,261	384,808	△42,547	387,672	△45,411
経費	569,374	618,265	△48,891	548,499	20,875
研究研修費	16,101	19,667	△3,566	4,536	11,565
財務費用	32,752	32,752	0	41,808	△9,056
その他経常費用	125,897	125,797	100	124,662	1,235
経常損益 (ア-イ)	38,192	△97,465	135,657	112,603	△74,411
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	38,192	△97,465	135,657	112,603	△74,411
病床確保料(エ)	99,631	0	99,631	109,865	△10,234
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△61,439	△97,465	36,026	2,738	△64,177
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院では長期入院患者数の減、新型コロナウイルス感染症流行に伴う予定入院キャンセル等により入院患者数が減少し、外来では放射線治療の休止、再診料の減等の影響があり、医業収益は対計画で△93,291千円下回った。 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> 給与費は、正規医師2名の増員があったが給与費全体ではほぼ計画並みとなり、材料費は、入院患者数の減、高額医薬品使用の減等により医薬品費、診療材料費が減少し計画を△13,307千円下回った。経費は、原油価格高騰に伴い光熱水費で対計画を116.9%上回ったが、物品購入・修繕時の価格交渉や保守契約内容の精査等の費用削減取組に努め経費全体では計画を△48,891千円下回った。この結果、経常費用は計画を△107,573千円下回った。 <p>◆純損益</p> <ul style="list-style-type: none"> 当期純損益は、病床確保料を含めた場合38,192千円の利益、病床確保料を除く場合△61,439千円の損失となった。 				

2-6 信州木曾看護専門学校

【理 念】

地域医療、高度・専門医療、県民の視点に立った医療を提供する公的使命をもつ長野県立病院機構立の学校として、看護の社会的役割を担うことのできる専門職者の育成を目指します。恵まれた自然と歴史ある環境のもとで、人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育み、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養成します。さらに、生涯にわたって学び続ける態度を身につけ、地域における保健・医療・福祉の発展充実に貢献する人材を育成していきます。

【基本方針】

- 1 看護の対象である人間を総合的に理解する豊かな人間性と幅広い視野を養う。
- 2 科学的思考に基づき、対象に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
- 3 保健・医療・福祉の領域において他職種等と協働できる基礎的能力を養う。
- 4 看護職者として主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

2-6-1 総合評価

【成 果】

- ア 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成
 ・地域性を活かした授業や課外活動により、地元地域への愛着を育む

項 目	上 期 実 績	年 間 計 画	対計画 増減
実施件数	5件	9件	△4件
内容	① 地域で生活する人を知る実習 ② 看護の日の活動 ③ 山歩き（環境論 1年） ④ 森林セラピー（環境論 1年） ⑤ ほおば巻きづくり（食育学習） ⑥ そば打ち（10月予定）（食育学習） ⑦ 盲・ろう学校訪問（10月予定）（人間関係論） ⑧ 第8回学校祭（10月予定） ⑨ アイスキャンドル制作（2月予定） （町のイベント参加）	① 地域で生活する人を知る実習 ② 看護の日の活動 ③ 山歩き（環境論 1年） ④ 森林セラピー（環境論 1年） ⑤ ほおば巻きづくり（食育学習） ⑥ そば打ち（食育学習） ⑦ 盲・ろう学校訪問（人間関係論） ⑧ 第8回学校祭 ⑨ アイスキャンドル制作 （町のイベント参加）	

- ・基礎的な看護技術の習得と実践力の向上を図る工夫
 ベッドメイキングの技術教授を工夫（2年生から1年生へ伝授）

令和4年度最終合格率	令和3年度最終合格率	対前年度増減
100%	100%	前年と同じ

- ・木曾病院をはじめとする臨地実習施設と連携を取り実習体制の整備
 各実習病院と連携しながら領域実習（成人看護学・精神看護学・老年看護学・母性看護学・小児看護学・在宅看護論）を4クール終了した。

イ 教員等の安定的な確保及び教育力の向上

- ・教務主任、専任教員の育成

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
放送大学 在学	3人	3人	計画どおり	3人	前年と同じ
その他大学進学	1人	1人	計画どおり	1人	前年と同じ
学会等への参加	2人	1人	1人	0人	1人

ウ 学生確保に向けた取り組み

- ・高校訪問、出前授業、ホームページ、オープンキャンパスを通じた認知度の向上

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
高校訪問数	62校	61校	1校	65校	△3校
ガイダンス・模擬授業	12回	13回	△1回	13回	△1回
オープンキャンパス参加者	2回 91人 (保護者含む)	3回 130人	△1回△39人	2回 113人 (保護者含む)	±0回△22人
ホームページ ブログ更新	20回	41回	△21回	41回	△21回
インスタグラム での情報発信	0回	10月開始	—	0回	—

エ 学生の学習環境及び生活環境の整備・充実

- ・入学前学習から入学後の学習習慣につながるサポート
入学前に課題を提示し学習への動機付け、入学後に知識確認テストの実施
- ・国家試験（以下国試）対策の推進及び受験のサポート

全国模擬試験・過去問題の実施 など	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
2年生	2回	4回	△2回	4回	△2回
3年生	18回	28回	△10回	28回	△10回

- ・模擬試験以外のサポート

学年	内容	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
2年生	国試ガイダンス 解剖見学事前学習	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
		0回	1回	△1回	1回	△1回
3年生	実習中 15分ドリル 業者の学習講座 特別講座 土曜開校	実習中は ほぼ毎日	実習中は 毎日	ほぼ計画どおり	実習中はほぼ 毎日	前年と同じ
		1回	1回(夏休み)	計画どおり	1回	前年と同じ
		0回	1回(冬休み)	△1回	1回	△1回
		0回	3回 (12~2月予定)	△3回	2回	△2回
	0日	9日 (12~1月予定)	△9日	9日	△9日	

オ 卒業生と在校生の交流の場づくりとフォローアップ

- ・ホームカミングデイの実施

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
ホームカミングデイ	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ

期日 6月25日(土)

参加人数(卒業生) 13人(うちオンライン3人)

カ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築

・地元行事への参加を通じて交流を深めて学校の認知度をあげる

項目	上半期実績	年間計画	対計画
実施 件数	0件	8件	△8件
内容	4月 学生宿舎地区の春祭り（中止） 5月 木曾町学生歓迎会（中止） 6月 木曾郡ふれあいスポーツ交流会 （中止） 9月 林業大学校との連携事業（中止） 10月 学校所在地の文化祭参加（予定） 11月 木曾病院防災訓練（予定） 11月 木曾病院祭（中止） 2月 雪灯りの散歩道（予定）	4月 学生宿舎地区の春祭り 5月 木曾町学生歓迎会 6月 木曾郡ふれあいスポーツ交流会 7月 木曾病院防災訓練 9月 林業大学校との連携事業 10月 学校所在地の文化祭参加 11月 木曾病院祭 2月 雪灯りの散歩道	
コメント	*新型コロナウイルス感染症のため一部行事が中止となり参加できなかった。		

キ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善

- ・学校評議会を通して意見収集
- ・自己点検・自己評価を行いホームページで公表

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
学校評議会の開催	0回 (10月予定)	1回	△1回	1回	△1回
自己点検・自己評価の公表	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ

2-6-2 経営指標等

【損益計算書】

信州木曾看護専門学校

(税抜、単位：千円)

科 目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	78,476	79,105	△629	78,811	△335
看護師養成所収益	9,278	9,278	0	9,199	79
運営費負担金収益	61,302	61,303	△1	61,318	△16
その他経常収益	7,896	8,524	△628	8,295	△399
経常費用 (イ)	73,586	80,878	△7,292	71,326	2,260
看護師養成所費用	72,913	80,204	△7,291	70,454	2,459
給与費	56,282	59,576	△3,294	55,999	283
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	5,996	5,606	390	5,161	835
経費	10,515	14,764	△4,249	8,821	1,694
研究研修費	121	259	△138	473	△352
財務費用	0	0	0	1	△1
その他経常費用	673	673	0	871	△198
経常損益 (ア-イ)	4,889	△1,773	6,662	7,485	△2,596
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	4,889	△1,773	6,662	7,485	△2,596
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生宿舎退去に伴う貸付料減等 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給与費は、教員の異動に伴う減等 ・ 経費は、修繕先送り等による減 				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-7 本部研修センター・本部事務局

2-7-1 総合評価

【成果】

ア 地域医療構想への対応

- ・地域医療構想の実現に向けた公立病院経営強化ガイドラインへの対応
総務省開催の説明会に、県医療政策課とともに参加し、ガイドラインへの対応を打ち合わせた。

イ 県内医療に貢献する医師の確保・養成に係る取組

- ・医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育の充実
医学生6年生のシミュレーション教育において、初期研修医シミュレーション教育のプログラムへ参加（前年度までは見学のみ）

区分	対象		R4 上半期 実績	R4 上半期 年度計画	対年度 計画	前年度 上半期実績	対前年度 上半期実績
シミュレーション教育	医学生	回数	12回	—	—	8回	4回
		参加者数	16人	—	—	16人	0人
	初期臨床 研修医	回数	14回	—	—	14回	0回
		参加者数	48人	—	—	50人	△2人
シミュレーション体験	医学生	回数	5回	—	—	5回	0回
		参加者数	5人	—	—	5人	0人

- ・医師確保推進のための医学生対象長野県立5病院 Joint セミナーの開催
県立5病院の指導医による運営会議を1回開き、3月4日（土）にセミナーをWeb形式で開催することと決定

ウ 機構職員の養成に係る取組

- ・シミュレーション教育指導者委員会による指導者連携と教育の充実
教育指導者の育成及び研修の充実を目的に委員会を2回開催。委員会では、シミュレーション教育シナリオ情報共有事業として、登録された各施設シナリオの発表・意見交換を実施
委員は、自己研鑽を兼ねて、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズにファシリテータとして参加

委員会の検討内容
<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション教育指導スキルアップシリーズにおける講演内容の検討、及びファシリテータ打合せ ・シナリオ情報共有事業（各施設のシミュレーション教育シナリオを登録し、機構全体で共有するもの）で登録されたシナリオ（3本）の意見交換等 ・今年度開催予定のシミュレーション教育指導者研究会幹事会との連携

・全職員を対象とした研修の充実

職員の知識・技術・資質の向上のため、課程別研修、選択研修及び職種ごとの専門研修を実施。なお、集合研修とオンライン研修を組み合わせ企画し、集合研修は基本的な感染対策の徹底に特に留意して実施

区 分		R4 上半期 実績	前年度 上半期実績	対前年度 上半期実績
研修（課程別・選択・専門）	回数	13 件	12 件	1 件
	参加者数	504 人	499 人	5 人

・新規採用職員等の体験研修の充実

新卒の事務部、薬剤部の職員 14 人が、配属先病院において多職種体験研修を実施したほか、来年度の医療技術部を含めての実施について、関係者と検討を開始

勤務 2 年日事務職員等 3 人が、配属先以外の病院において他病院体験研修を実施

・指定研修機関として特定行為ができる看護師の養成（信州）及び特定行為研修内容と修了後の活用の検討

受講生の募集を県立病院機構以外の看護職員にも拡大し、地域の医療人材を育成

看護部長打ち合わせ会で修了後の活用について検討、修了者の支援体制を構築

来年度の研修内容について、コアメンバーで検討を開始

期別	研修期間	特定行為研修内容	受講者
第 1 期	令和 2 年 10 月～ 令和 3 年 9 月	【在宅・慢性期パッケージ】 *内容は下記のとおり	信州 2 名 阿南 1 名 木曾 2 名
第 2 期	令和 3 年 10 月～ 令和 4 年 9 月	【在宅・慢性期パッケージ】 *内容は下記のとおり 【血糖コントロールに係る薬剤投与 関連】	在宅 木曾 1 名 こども 1 名 血糖 信州 3 名 木曾 1 名
第 3 期	令和 4 年 10 月～ 令和 5 年 9 月	【在宅・慢性期パッケージ】 *内容は下記のとおり 【血糖コントロールに係る薬剤投与 関連・栄養及び水分管理に係る薬剤 投与関連】 【栄養及び水分管理に係る薬剤投与 関連】	在宅 機構外 3 名 血糖・栄養水分 信州 2 名 阿南 1 名 栄養水分 信州 3 名 木曾 1 名

*内容：呼吸器（長期呼吸療法に係るもの関連）、ろう孔管理関連、創傷管理関連、
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の 4 区分

エ 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献に係る取組

・長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会の開催

シミュレーション教育を活用した研修の実施と研究に取り組み、長野県内医療従事者の技術水準向上に貢献することを目的に、4 月 1 日に研究会を設立。幹事会を 2 回開催し、12 月 10 日開催予定

の研究発表会に向け準備、検討を実施

幹事会の検討内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究の利益相反(COI)に関する指針及び細則(案)、研究会開催要領(案)、プログラム(案)、一般演題募集要項(案)について内容検討 ・長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会における講演内容の検討 ・研究会当日の役割分担等の検討 	

- ・機構外の医療機関等も含むスキルスラボ、シミュレータの利用促進

信州医療センターの院外広報誌に、シミュレータ貸出しの問い合わせフォームなど「研修センターの取り組み紹介」を掲載（須坂市、高山村、小布施町全戸および各関係医療機関に配布）

【スキルスラボ及びシミュレータ使用実績】

区 分		R4上半期 実績	R4上半期 年度計画	対年度 計画	前年度 上半期実績	対前年度 上半期実績
スキルスラボ	使用回数	232 回	—	—	259 回	△27 回
	利用者数	1,454 人	—	—	1,482 人	△28 人
シミュレータ	使用回数	160 回	—	—	227 回	△67 回
	利用者数	1,267 人	—	—	1,307 人	△40 人

- ・機構外の医療機関等も対象としたシミュレーション研修の実施

研修名	開催時期	参加者数
スキルアップシリーズ①②（オンライン研修） ※③は集合形式により実施	8月～11月	機構内外 ① 25人(他に聴講者9人) ② 25人(他に聴講者8人) ③ —
シナリオブラッシュアップ講座（オンライン研修）	3月	—
病院等への講師派遣	5月～9月	5件 10人
機構外の学校、福祉施設等への講師派遣	4月～9月	8件 113人

オ 医療の質の向上に係る取組

- ・医療安全相互点検の実施及び医療安全管理研修会の開催

4病院を各病院の医療安全管理者等で点検、評価を行った。

なお、再点検項目については、点検、評価を行った病院において、すべて改善した。

また、コロナ禍で中止していた医療安全管理者研修について、職員間のコミュニケーションをテーマとして Web 方式で開催した。

- ・本部画像診断センターによる画像診断

県立病院の画像診断体制を強化するため、こども病院内に開設している本部画像診断センターで、木曾病院からの依頼に基づき画像診断を実施

- ・県立病院の担う医療、各種データ、研究成果等を網羅した「機構年報」の発刊
12月発刊を目指して準備中

カ 職員の勤務環境の向上

- ・看護部における医療の質と経営的な視点を両立させる適正な人数の検討
適正配置を求め続ける組織文化を醸成するため、副看護部長が看護師長の教育を実施
- ・各病院と協力し、RPA（ロボットによる業務自動化）などによる事務効率化の研究
8月に木曽病院及びこども病院と信州大学を訪問し、RPAの活用状況の見学を実施。本部事務局においてもRPA（UiPath）を11月に導入予定。

キ 職員の心身の健康保持及び増進

- ・保健師及び相談員による巡回健康相談を実施
- ・ストレスチェック及びメンタルヘルス巡回相談を実施しメンタル疾患を早期に把握

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
新規採用職員研修（メンタルヘルス） 〔保健師〕	1回 (87人)	1回 (72人)	前年と同じ (15人)
メンタルヘルス巡回相談(新規採用職員等対象)〔保健師〕	各所属2回 (158人)	各所属2回 (146人)	前年と同じ (12人)
健康(メンタルを含む)巡回相談(全職員対象)〔保健師〕	各所属2回 (205人)	各所属2回 (196人)	前年と同じ (9人)
過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕	各所属で実施 (4人)	各所属で実施 (9人)	前年と同じ (△5人)
ストレスチェック(全職員対象)	1回 (1,648人)	1回 (1,679人)	前年と同じ (△31人)

ク 経費削減の取組

- ・病院と機構本部が連携した卸業者又はメーカーとの価格交渉の実施等による医薬品費及び外部委託検査費の削減
コンサルタント、各病院の薬剤部長等と連携した医薬品の価格交渉を行い、4月1日に遡って交渉後単価を適用し、医薬品費を16,853千円(合計金額)削減

【遡及額】

(税抜 単位:千円)

信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	合計
6,624	784	795	4,215	4,435	16,853

- ・外部委託検査費の削減
コンサルタント等と連携した外部委託検査の価格交渉を行い、7月1日から交渉後単価を適用し、外部委託検査費を年間で9,982千円(合計金額)削減

【削減額】

(税込 単位：千円)

信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計
4,071	1,319	678	1,875	2,039	9,982

ケ コンプライアンスの推進と適切な情報管理

・ 内部監査の実施

病院等を対象とし、「職員の特定期間情報の管理」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による監査を実施

・ 各種研修会の開催

「汚職」及び「パワーハラスメント」をテーマにコンプライアンス研修をeラーニングにて開催

コ 施設整備及び医療機器に関する事項

- ・ 機構全体の施設（建物・設備）に係る中長期的な整備計画・資金計画等の最適化管理のため、現状把握等を実施

サ 新型コロナウイルス感染症に係る対応

- ・ 県との連携体制強化及び迅速かつ適正な医療提供体制の調整等を図るため、看護職員1人を県（感染症対策課）に派遣研修（令和4年3月1日～令和5年3月31日）
- ・ 本部事務局及び本部研修センター職員（計24人）による信州医療センター正面玄関前での検温当番（交代制）の応援

2-7-2 経営指標等

【損益計算書】

本部研修センター・本部事務局

(税抜、千円)

科 目	R4 上半期 累計 a	R4 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	21,187	21,190	△3	21,792	△605
運営費負担金収益	20,956	20,956	0	19,117	1,839
その他経常収益	231	234	△3	2,676	△2,445
経常費用 (イ)	190,378	211,134	△20,756	198,691	△8,313
一般管理費	184,836	205,651	△20,815	198,584	△13,748
給与費	153,984	159,069	△5,085	164,647	△10,663
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	16,127	15,396	731	18,958	△2,831
経費	13,797	26,849	△13,052	13,907	△110
研究研修費	928	4,337	△3,409	1,071	△143
財務費用	143	143	0	104	39
その他経常費用	5,399	5,340	59	4	5,395
経常損益 (ア-イ)	△169,191	△189,944	20,753	△176,899	7,708
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△169,191	△189,944	20,753	△176,899	7,708
コメント	<p>◆経常費用</p> <p>・研究研修費は、新型コロナウイルスの影響による研修中止・内容変更により対計画で減少した。</p>				